

マネージャーとして ----

武生税務署の職員53名をまとめ、署全体をマネジメントしていく ことも署長の重要な業務です。職員一人一人の力と思いを、どうした ら最大限のパフォーマンスに昇華できるか、署のメンバーと話し合 いながら、日々試行錯誤しています。

それぞれの事情に照らして働きやすい環境となっているか、事務 改善や効率化について声を上げやすい環境ができているかなど も、大事なポイントです。

また、国税庁・国税局からは事務運営の方針が示されますが、署 の実情や地域の特性を踏まえると、武生税務署ではどのように実行 すれば効果的・効率的か?ということも、署のメンバーとよく議論し て検討・判断しています。職員から語られる現場での実感は、今後ま た国税庁に戻って仕事をするにあたっても、大変貴重な声です。

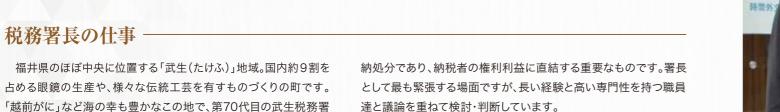
国税庁総合職の魅力

国税庁総合職として働く魅力の1つは、税務行政という一本の軸 にあらゆる視点からアプローチ出来ることだと思います。私は、昨 年までは国税庁で、国税局や税務署の方針を考える仕事をしてい ましたが、今年はその方針を受けて実行する立場に立っています。 本庁で頭を捻って悩みながら打ち出した方針は、現実とかけ離れた ものになっていないか?実際に現場でワークする枠組みになってい るか?行政官としてとても重要な視点を、この「本庁⇔現場」のプロ セスで身をもって学ぶことができるのは、全国12局・524署の地方 支分部局をもつ国税庁だからこその強みです。

この大きな組織が、激変する世の中の環境に対応し、これからも 使命を果たし続けていくにはどうしたらいいか。それを考えるのが 国税庁総合職の仕事です。一緒にチャレンジしてくれる方の訪問を お待ちしています。

(1) 1日の業務スケジュール





国税組織において税務署とは、執行の最前線、いわゆる「現場」で す。納税者から申告・納税を受け付け、必要に応じて税務調査や、差 押え等の滞納処分を行うのが主な仕事ですが、その中で署長は、 「現場の最終責任者」の役割を担っています。日々職員が資料を抱 えて持ってくる案件は、ここで私が頷けば実行される課税処分、滞

達と議論を重ねて検討・判断しています。

また、e-Tax申告やキャッシュレス納付の推進といった各種施策 を外部へPRするため、署のスポークスマンとしての役割も担ってい ます。関係団体などの協力を得て周知・広報したり、セミナーなどの 機会で講演したり…署長という立場で地域の方々と接する場面が 多くあり、学びの多い機会となっています。







税務署長の仕事

長を務めています。